

假屋

かりや・ともひろ

智博さん

▶千歳での就農のきっかけとなった奥様と。地域への愛は夫婦共に「故郷以上」とのことです。



プロフィール

■ 假屋 智博 (かりや ともひろ) さん / 41 歳 / 東丘在住 / 兵庫県出身 / 十勝、留萌、千歳と農業の実務研修期間を経て、平成 22 年から千歳市東丘で営農開始 (麦、豆類、ビート、ゴボウなど) / 現在は石狩地区農協青年部連絡協議会の会長 (平成 30 年 3 月就任)

昨年 11 月 13 日に、(公財) 北海道農業公社が主催する《新規就農優良農業経営者表彰式》が札幌で開催され、平成 22 年から市内東丘で農業を営んでいる假屋智博さんが最優秀賞を受賞しました。

効率的な機械利用で 55 ha の畑 (全道平均約 25 ha) を夫婦 2 人で経営していることが評価された假屋さんにお話を聞きました。

● 農家出身ではない假屋さんが千歳で就農したきっかけは

「兵庫県出身。親はサラリーマンでしたが、高校時代に、日本人が食糧不足に悩む海外の砂漠地帯で緑化を進めるドキュメンタリー番組を見て、『食』としての農業の偉大さに関心を持ち、農業大学へと進学しました。

結婚後、妻が北海道での農家の生活にあこがれを抱いていたので、平成 18 年から 4 年間、道内数か所で農業を学び、『道央農業振興公社』の後押しをいただいたことで平成 22 年から千歳で就農することができました。」

● 新規就農の難しさ (苦労) は

「『就農者』というにはあまりに無計画で、最初の畑は 8 ha でトラクター 1 台。知識も技術ももないません。しかし、そんな新参者の夫婦二人を、地域の皆さんは、機械を貸してくれたり、収穫を手伝ってくれたり、温かく受け入れてくれたのです。」

数年前、農作業中に倒れ、意識不明で病院に担ぎ込まれたことがありました。その間の収穫を、地

新規就農優良農業経営者表彰・最優秀賞受賞の舞台裏
「東千歳の地域が受賞した栄誉としか言い表せない思いです。」

域の皆さんが手伝ってくれていたことを後に妻から聞いたとき、何もいえない気持ちになりました。」

● 今回の受賞の感想は

「今の農業経営で、収穫時期が長いゴボウに助けられているのも、効率的な機械作業ができるのも、すべては地域の農家の皆さんの教えや支援があったからです。」

今回の《優良農業経営者》という肩書きは、私たち 2 人の受賞ではなく、私たちの就農を支えてくださった、東千歳という地域が受賞した栄誉としか言い表せない思いです。

ここでは、農業以外の生活全般にわたり《共同作業》という連帯感があります。私は、農協の青年部で、担い手育成支援や

婚活事業などの活動に励んでいるつもりですが、私たちに注いでくれた地域の温かさや心強さに対し、せめてもの恩返しをしたいという思いが強くなります。 : それですべてなのです。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

假屋さんの長男は、現在高校生。農業に関心があるとのことですが、自分の畑を子に継がせることにこだわらないそうです。わが子に限らず真に農業を目指す若者を育成し、継承させることが大切と語る假屋さん。地域に支えられ育まれた地域愛が、次の世代へとさらに間口を広げていく。そうした《善意の循環》は、今の農業が抱える一つの課題の解決に向けた糸口のように思えます。

